会報

全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会

第49号
発行者
全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会
会長　萬里小路伸一郎

事務局
京都府八幡市男山美桜5-27
昌玉研修会館内

印刷
山代印刷株式会社

先駆躍動するPTA

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会
会長　萬里小路伸一郎

昨年、全幼P全国大会東京大会において、本会設立五十周年記念式典を開催いたしました。式典で秋篠宮同妃両殿下のご台臨を仰ぎ、高井美穂文部科学副大臣をはじめ多くのご来賓ご臨席の中、秋篠宮殿下からお祝いお励ましのお言葉を頂戴いたしました。

本会がこのような栄誉に浴することができ、五十年に亘り「自らが、子育ての当事者である責任を自覚し、わが国の幼児教育の振興に寄与する」信念を貫いてこられたのも、先人先輩諸氏のご尽力と多くの関係各位のご支援の賜物であり、改めて厚く感謝し、御礼申しあげます。

いま、子どもたちと子育て世代を取り巻く環境は、政治と経済の混迷により必ずしも好ましい状態とはいえません。私たち自身も、何をどのように改革し、何を信じたらよいのかわからず、ついつい目先の不平不満に捕われてしまいます。

この最大の原因は、私たち一人ひとりが、日本人としての誇りを忘れ、進むべき道を見失っていることではないでしょうか。しかしながら、私たちは人に頼まれて、子育てをしているのではありません。私たちの子育ては、私たちが主体者です。どのような環境でも、子どもの未来のために努力を続ける責務があります。

そのためには、皆さんのPTAが、後手に回るのではなく、率先して研究や活動をする必要があります。更なる皆様の研鑽をお願いする次第です。

本会は次の五十年に向け新たな一歩を力強く歩み始めます。今年は更なる組織の強化と向上を計る所存でおりますので、会員の皆様のなお一層のご協力をお願いいたします。

秋篠宮殿下お言葉 ―設立50周年記念式典

このたび、全国国公立幼稚園PTA連絡協議会が、設立から50周年を迎え、本日その記念式典が開催され、皆様とともに出席できましたことを大変うれしく思います。

PTAは、保護者と教員が協力し、研鑽を深めながら、子どもたちの健全な成長を支えるための組織であります。

その考えのもと、本協議会は全国の国公立幼稚園PTAと連携を図り、幼稚園教育振興に関する諸問題を研究協議し、その充実を期することを目的として設立されました。

本協議会が設立されてからの50年、社会は大きく変動し、また幼稚園とそこに通う園児の家庭を取り巻く環境も様々に変化してまいりました。

本協議会は、そのような時代の要請を踏まえつつ、生涯にわたる人格形成の基盤となる幼児教育の重要性と国公立幼稚園の教育内容を正しく理解するための研究協議を重ね、優れたPTAと家庭教育の実践活動を実現してこられました。

また、毎年、全会員を対象に行われるアンケートの結果を家庭教育に活用したり、早寝早起き朝ごはん国民運動を推進したりするなど、社会教育関係団体としての活動も積極的に進めてこられたと伺っております。

このように、本協議会が、設立以来50年にわたって我が国の幼児教育や家庭教育の充実に力を尽くされてきたことに、深く敬意を表したく思います。

終わりに、このたびの東京大会が実り多きものとなるとともに、全国国公立幼稚園PTA活動が今後も一層発展していくことを祈念し、式典に寄せることばといたします。

平成二十四年度 優良PTA文部科学大臣表彰

平成二十四年七月三十一日(火)全国国公立幼稚園PTA連絡協議会設立五十周年記念式典において、左の団体が表彰されました。

秋田県　潟上市立天王幼稚園PTA
福島県　相馬市立大野幼稚園・小学校PTA
東京都　台東区立根岸幼稚園PTA
静岡県　湖西市立岡崎幼稚園PTA
静岡県　西伊豆町立仁科幼稚園父母の会
愛知県　犬山市立犬山幼稚園PTA
滋賀県　竜王町立竜王西幼稚園PTA
大阪府　堺市立三国丘幼稚園PTA
兵庫県　神戸市立神戸幼稚園PTA
岡山県　美作市立土居幼・小PTA
岡山県　岡山大学教育学部附属幼稚園 青桐会
広島県　広島大学附属幼稚園 木いちごの会・FCの会
山口県　下関市立黒井幼稚園育友会
香川県　東かがわ市立誉水幼稚園PTA

おめでとうございます。

特別寄稿

人と人との距離感

全国国公立幼稚園長会
会長　荒木　尚子

毎朝の通勤電車の中で、最近、居心地の悪いことや困ることに出会うことが多くなってきました。

例えば、降車駅が近付き座っている席から（満員ではないので）立ち上がろうとすると、私の目の前の吊革に掴まって立っている人が微動だもせずに立っているので私は中腰のままその人の腰の脇から潜って出て立ち上がるようにしなければなりません。ある時は、立ち上がった瞬間に、吊革をつかんで直角に曲がっているその人の肘に頭をガツンとぶつけたこともあります。また戸口の方に移動して降りる準備をしていても開くドアの前に仁王立ちの人がいます。あまり混雑していない電車にもかかわらず、ホームに降りるまで、一苦労する毎日です。何かが変な感じに変わってきているのかしらと思うことがたびたびです。

十年ほど前に、道を歩いていて人とぶつかりそうになることがあり、ヒヤッとしたことがありました。前を見て歩いている人なのに何の躊躇もなく勢いよく真っ直ぐこちらに向かって歩いてきます。あわててぶつからないように避けて無事でしたが、歩道を歩くのもかなりの緊張が必要になったと思ったのは、私が年取ったからのせいとは違うように思いました。

今、コーヒーのCMで頼りになりそうな部長が障害物競走は得意だったからねと格好良く取引先へ出向こうとしながら、会社を出た途端に前から歩いてきた人とぶつかりそうになって避けられず、会社に引き返してしまい、コーヒーで一息入れるというものがあります。小さな笑いを誘うCMとして作られているのかもしれませんが、今後、笑い事ではすまないことになるように感じる今日この頃です。

人とのかかわりの希薄さが、日常の生活の中で、人々の立ち居振る舞いをぎこちなくしているのではないかと考えます。

行き交う人の流れを見て、自分の歩くコースを決める、ぶつかりそうになったら相手を見て反対側に身をかわす、「すみません」と声を掛ける、「どうぞ」「どうも」と譲り合う、このようなことは、社会に出て行く前に身に付けておいた大人の行動でした。それが、下手だったり、苦手だったり、嫌だったりという人が確実に増えているようです。

少子化・核家族化・IT化の現代では、人との直接的なかかわり方に変化が出てきています。社会に出て、一人前の大人の行動ができるようになるには、やはり、幼児期の生活の中での土台作りが必須です。

第五十回全幼P全国大会東京大会のサブテーマに「時を越え未来をつなぐ江戸しぐさ」がありました。ここでいう江戸しぐさは、江戸時代に江戸の町衆の中でつないできた社会人としての文化です。江戸しぐさは「人にして気持ちいい、してもらって気持ちいい、はたの目に気持ちいい」もので、人みな気持ち良く笑顔で暮らせる社会環境をつくるための基盤になるものです。

「傘かしげ」「こぶし腰浮かせ」などの行動が江戸しぐさの代表的なものとしてよく提示されますが江戸しぐさは、本当は心の行動としての躾です。知らない間に身に付いていた日本人の文化として染み込んでいた躾の数々が、今、生かされず眠った状態なのかもしれません。相手のことを思い、守らなければならないこと、伝えたいことと考えれば、万国共通のマナーやルールの体得なのだと思います。

ロンドンで生きている江戸しぐさとして、こんな話がありました。ある英国在住の日本のジャーナリストが、若い英国人を訪問した時その若い父親は幼い息子に離乳食を与えていました。スプーンを口に運ぶ度に「サンキュー」と語りかけるのだそうです。「赤ちゃんはまだ口が利けないし、わからないでしょう？」というとその父親は「もちろん、しゃべれませんけど彼が最初に覚える言葉が『サンキュー』であってほしいから」と答えたそうです。素敵な話です。

江戸しぐさはサッとやる瞬間芸でその人の体に染み付いた考えや思いがそのまま行為となって語るいわば身体技法といえるもので、口のきき方・目つき・表情・身のこなしが見るからにイキ（生き生きと行う）で素敵なのです。

今、イキで素敵な行為をどれだけ大人たちが示しているでしょうか。幼稚園では、教職員が、家庭では、保護者が、子どもたちの周りにいる大人が、日常の生活の中でごく自然に行う振る舞いがイキで素敵になっているのかということを、もう一度振り返ることが必要なのではないでしょうか。

足を組んで座っていた、つい大きな声で「早くして」と言っていた、瞬間にお礼やお詫びの言葉が出ないなどは、誰もがやってしまいがちな行為です。しかし、日本の文化としてずっと躾けられてきた心は眠らせたままにしていてはならないのです。大人がイキで素敵な行為を意識の中に少しでも位置付けることで文化は眠りから覚めるはずです。

子どもは、いつかは大人になります。大人は以前は子どもだったはずです。人と人がかかわり合い互いに生きていく上で気持ちのいいことを日常的に豊富にしていかなければならないはずです。人と人との距離感が気持ちのいい寸法になりにくい世の中になったり、頃合いのいい距離感が分からない人が増加していくことを恐れています。

集団教育としての幼稚園の場で子ども同士が様々なかかわり方を経験し、人と人との心地よい距離感を感じ取ることの重要性は益々必須です。自分も他人もどちらも大切にする心を育てるために、イキで素敵な行為を意識していきたいものです。子どもたちの未来をつなぐものとなるために。

引用文献

「身に付けよう！　江戸しぐさ」
越川禮子　KKロングセラーズ

第五十回全国国公立幼稚園ＰＴＡ全国大会

総会ならびに研究協議

―東京大会―

大会ならびに全幼Ｐ設立五十周年記念式典の報告

世界に誇る東京スカイツリーのお膝元、江戸情緒と近未来の共存する街、墨田区のすみだトリフォニーホールにおいて、記念すべき第五十回全国国公立幼稚園ＰＴＡ全国大会ならびに全国国公立幼稚園ＰＴＡ連絡協議会設立五十周年記念式典が盛大に開催されました。

第一日目は荘厳なパイプオルガンの音色が流れ、参会者全員による大合唱で会場がひとつになったところから総会が始まりました。

第二日目は、本会設立五十周年記念式典が挙行され、秋篠宮同妃両殿下のご台臨を賜りました。秋篠宮殿下からは本会に対しての励ましと心温まるお言葉をいただきました。文部科学省の講話「幼児期に大切にしたい教育」に続き、三園の提案発表では、貴重なＰＴＡ活動の実践が発表され、大いに学ぶことができました。記念講演は、聖路加国際病院副院長の細谷亮太先生による「優しさはどこから」と題して、小児ガンの子どもたちとのふれあいの中から、「優しさ」について感動的なお話を伺いました。

今大会は二日間にわたり、コンサート会場ならではの音楽的な催しも多く取り入れられ、心安らぐひとときを味わうことができました。

昭和三十八年の発足から半世紀にわたり先輩たちが築いてこられたＰＴＡの歴史を、今改めて振り返り感謝する機会となりました。次代を担う子どもたちのために、さらなる努力を心に誓い、東京大会を無事終えることができました。

大会要項

一　大会主題

大地のような子どもを育てよう

～ＴＯＫＩＯ（時を）越え　未来をつなぐ　江戸しぐさ～

二　期日・会場

平成二十四年

七月三十日（月）・三十一日（火）

すみだトリフォニーホール

東武ホテルレバント東京

三　日程

七月三十日（月）

・会計監査　・役員会

・理事会　・総会

・情報交流会

七月三十一日（火）

・設立五十周年記式典

・表彰式

・文部科学省講話

・提案発表

・記念講演

第五十回「東京大会」表彰状・感謝状受賞者（敬称略）

全幼Ｐ会長表彰

前全幼Ｐ副会長

東京都　荒木尚子

前全幼Ｐ監事

愛媛県　烏谷良子

全幼Ｐ会長感謝状

大阪市立幼稚園

ＰＴＡ連絡協議会

堺市立幼稚園ＰＴＡ協議会

東大阪市ＰＴＡ協議会

ＰＴＡ連絡協議会

平成二十四年度活動方針ならびに事業計画

一　活動方針

全国国公立幼稚園ＰＴＡ連絡協議会は、結成以来、日本の子どもの幸せと未来を保障するため、幼児教育の振興に、さまざまな形で寄与すべく活動を続けてきた。

また、幼児の育成に関わるものとして、自らその責任を自覚し、資質と見識の向上に不断の努力を傾注してきたと自負するものである。

しかし、現下の幼児を取り巻く環境は、少子化、価値観の多様化に加え、世上の幼児教育に対する理解不足のため、看過できない問題が山積している。

全国国公立幼稚園ＰＴＡ連絡協議会は、学校教育・生涯教育の原点は幼児教育にあることを再確認するとともに、幼児期の学校教育として全国の国公立幼稚園においてなされている教育が最上のものであると確信している。私たち保護者・教師は、幼児育成の直接の当事者である責任を認識し、全国国公立幼稚園長会との連携を密にして、以下の項目の実現を目指した行動の推進を活動方針とする。

記

(1)義務教育化を前提とした幼稚園教育の充実

(2)家庭・地域の教育力の向上

(3)会員の資質向上と組織強化

(4)国公立幼稚園教員の待遇改善

二　事業計画

四月～五月

●加入園へ会費納入と全幼Ｐ全国大会「東京大会」案内状発送

●未加入園へ加入依頼書と「東京大会」案内状発送

●平成23年度会務・決算報告書作成

●平成24年度理事名・加入園名報告依頼

●平成25年度全幼Ｐ全国大会「島根大会」における提案発表の依頼

●全幼Ｐ全国大会「東京大会」後援名義使用許可願発送（文科省・園長会）

●「東京大会」の助言者依頼

六月～七月

●第63回全国国公立幼稚園長会総会（香川大会）にて本会発展の協力依頼

●第59回全国国公立幼稚園教育研究協議会「福井大会」会長出席

●第五十回全幼Ｐ全国大会（東京）

●全幼Ｐ設立五十周年記念式典

●会計監査、役員会、第1回理事会、総会

八月～十二月

●「東京大会」決定事項の処理

●表敬訪問（文科省）・副会長会（東京）

●会報（49号）原稿依頼

●全幼Ｐ全国大会「島根大会」事前打合せ（島根）

●全幼Ｐアンケート実施

●平成25年度活動方針・事業計画書案と予算案作成

●第2回理事会（京都）

●理事会での検討事項の処理

一月～三月

●会報49号発行

●平成24年度会務報告と決算の中間報告書作成

●第3回理事会（東京）

●理事会での検討事項の処理

平成二十三年度　会務報告

（平成23年4月～平成24年3月）

月日	摘要
4月1日	●入会並びに会費納入についての文書（加入園）・本会入会文書（未加入園）発送
18日	●平成23年度理事名報告依頼（都道府県事務局）
20日	●東日本大震災義援金納入について各園に依頼状送付（全国園長会と共同）
21日	●東日本大震災被害調査開始
5月10日	●大阪大会について後援名義使用許可申請書提出（文部科学省・全国園長会）
	●大阪大会開会式臨席と祝辞依頼（文部科学大臣）
	●大阪大会研究協議会助言者推薦依頼（文部科学省生涯学習政策局長）
	●震災被災5県（岩手・宮城・福島・茨城・千葉）に第一次義援金配布
16日	●大阪大会最終案内発送（全幼P顧問・役員）
19日	●文部科学省表敬訪問
6月2日	●表敬訪問について依頼（文部科学省）
3日	●表敬訪問並びに副会長会案内状発送
10日	●第62回全国公立幼稚園長会総会・研究大会「広島大会」で本会発展の協力依頼（会長）
17日	●第1回理事会並びに役員会開催案内状発送
	●大阪大会研究協議助言依頼（全国園長会長）
24日	●大阪大会研究協議助言依頼（文部科学省）
25日	●日本教育会総会・研究協議会会長出席（東京）
7月5日	●全国知事会会長（京都府山田知事）表敬訪問（子ども子育て新システムについて）
6日	●表敬訪問並びに副会長会開催（東京） 訪問先　文部科学省 要望内容 1　幼稚園を希望する3・4・5歳児の完全就園 特に、3年保育の推進 2　教員の待遇改善 3　幼稚園教育環境の整備拡充（教員の加配） 重点要望事項 1　幼稚園における子育て支援充実のための財政基盤の強化 2　幼稚園の安全管理を徹底するための人員の配置・施設・設備の改善 3　幼稚園教員の資質向上を図る研修の実施等に必要な経費の確保
29・30日	●第58回全国国公立幼稚園教育研究協議会「千葉大会」会長出席
8月3日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会・総会開催（大阪） 総会 1　平成22年度会務・決算報告 2　会計監査報告 3　平成23年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4　今後の大会開催地・提案県について 5　役員改選報告 6　大会宣言文について
4日	●第49回全国公立幼稚園PTA全国大会「大阪大会」開催（開会式・表彰式・講話・提案発表・講演・シンポジウム・閉会式）

月日	摘要
12日	●全国大会礼状発送（文部科学省・全国園長会・全幼P顧問・大会開催地）
20日	●秋田県国公立幼稚園PTA連絡協議会研修会講演（会長）
9月1日	●会報48号原稿依頼
8日	●平成24年度「東京大会」における提案発表について依頼（宮城・茨城・埼玉）
9日	●第2回理事会・副会長会案内状発送
28日	●第50回全幼P「東京大会」実施説明会（東京）
10月18日	●全幼P設立50周年記念式典について宮内庁と協議 ●平成23年度優良PTA文部科学大臣表彰被表彰団体一覧表受領（文部科学省）
11月5日	●全国生涯学習ネットワークフォーラム2011会長出席（東京）
6日	●東京都公立幼稚園PTA連絡協議会研修会会長出席（東京）
12日	●日本教育会第36回全国教育大会会長出席（大阪）
16日	●神戸市立幼稚園第60回「あつまれこうべっこ」会長出席（兵庫）
	●第2回理事会開催（京都） 1　平成23年度「大阪大会」について 2　平成24年度「東京大会」について 3　全幼P設立50周年記念式典について 4　今後の全国大会開催県・提案県について 5　平成24年度活動方針・事業計画（案）について 6　アンケート調査について 7　ブロック別会議
18日	●平成23年度優良PTA文部科学大臣表彰式（東京）
12月20日	●大阪大会集録発送（文部科学省）
1月25日	●愛知県国公立幼稚園PTA連絡協議会研修会講演（会長）
27日	●第3回理事会案内状並びに会報48号発送（理事） ●東京大会第一次案内・大阪大会集録・会報48号発送（日本PTA全国協議会・全幼P顧問他）
28日	●会報48号発送（加入園）
2月1日	●京都府教育庁・京都市教育委員会表敬訪問 ●会報48号発送（大阪・東京大会事務局・寄稿者・全幼P未加入県園長会長・他）
14日	●第51回全幼P「島根大会」開催について依頼（島根大会実行委員長）
3月7日	●第3回理事会開催（東京） 1　平成24年度東京大会について（大会宣言文案） 2　全幼P設立50周年記念式典について 3　平成23年度会務・決算中間報告 4　平成24年度活動方針・事業計画（案）について 5　平成23年度予算（案）について 6　子ども子育て新システム検討会議他について 7　表彰状・感謝状受賞者について 8　平成25年度島根大会について 9　平成25・26年度提案県について 10　その他
17日	●早寝早起き朝ごはん全国協議会総会出席（事務局長）
22日	●大阪市立幼稚園フォーラム講演（会長）

大会宣言

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、昭和38年8月に島根県松江市公会堂で設立総会を行って以来、半世紀にわたり幼稚園と親と子のために活動を続けてきました。また、幼児の育成にかかわるものとして、自らその責任を自覚し、資質と見識の向上に不断の努力を傾注してきました。

近年、社会情勢や生活様式の急激な変化を受け、幼稚園教育は抜本的な制度改革を含めた議論の中にあり、大きな変革期を迎えています。そのような中、我々は昨年3月に東日本大震災を経験し、その後、社会全体が人と人とのつながりや絆を深め、支え合って復興に向けて努力を続けています。全国の国公立幼稚園PTAも、それぞれの地域において、大阪大会の全国アンケートで幼児期に最も大事にしたいこととして上げられた「思いやり」の心をもって、子どもたちの健やかな育ちのために協力して幼稚園教育を支えていかなければなりません。

東京においては、江戸から平成の今に引きつがれている人情や周囲の人への優しい気づかいなどの原点となった「江戸しぐさ」を普及して、子どもたちが安心して暮らせる未来をつくっていきます。「江戸しぐさ」は、庶民が「和」をもって共に生きていくために築き上げてきた知恵であり、東京都公立幼稚園PTA連絡協議会としても大切にしたい「ふるまい」「こころざし」です。

本大会は、第五十回の記念大会となります。「大地のような子どもを育てよう～TOKIO（時を）越え　未来をつなぐ　江戸しぐさ～」を大会主題に掲げ、心身共に健全な、まさに大地のようにたくましい子どもたちの育成のため、幼稚園とPTAの絆を強めつつ、新たな一歩を踏み出そうという願いを込めました。これは、半世紀にわたり、共に歩みを進めてきた全国国公立幼稚園PTA連絡協議会と全国国公立幼稚園長会にとって、共通の願いです。ここに、この願いに基づき、第五十回全国国公立幼稚園PTA全国大会東京大会の名において、次の決意を宣言いたします。

一、　家庭・地域・幼稚園の教育環境の充実に貢献します。

一、　PTA活動を通して生涯学習意欲を高めます。

一、　PTA組織及びその運営の充実を図ります。

一、　幼児の安全確保と幼稚園の安全管理を強化します。

一、　幼稚園教育の義務化と幼児教育諸条件整備を訴えます。

平成24年7月30日

第50回　全国国公立幼稚園PTA全国大会　東京大会

提案発表Ⅰ

「東日本大震災の教訓と今後の課題」

宮城教育大学附属幼稚園
平成二十一・二十二年度PTA会長
千葉　真己恵

1　はじめに

東日本大震災から一年五か月。萬里小路会長をはじめ、全国国公立幼稚園PTA連絡協議会の皆様方には、たくさんの心強い励ましのお言葉、また、義援金などの多大なるご支援を賜りまして被災地宮城県を代表いたしまして心より感謝申し上げます。本日は、この震災で浮き彫りになった様々な状況と課題を発表します。

2　東日本大震災の様子

園児は保護者とともにいたが、あまりの恐怖に子どもたちは泣きじゃくっていた。電気、水道、ガス、電話などすべてのライフラインがストップ。灯油もすぐ底をつき、みんな寒さと恐怖で震えていた。これからどうやって生活していけばいいのかと途方に暮れる人たちで溢れていたが、そこでの希望の光は無邪気な子どもたちの笑顔だった。どんなに心が沈んでいても子どもたちの純粋な心に触れるだけで私たちは希望が湧いた。

園児は、遊びの最中に突然、地震を思い出すようだ。先生方はカウンセラーの指導の下、しばらく震災の話には触れないようにし、普段通りの幼稚園生活を送れるような環境作りに全力を挙げてくださった。

3　今後の課題

○緊急メールシステムの見直し

メールシステムがダウンしても、保護者が迎えに来るまでは翌日になっても幼稚園で園児を預かることを周知された。

○避難所と地域避難場所について

国公立幼稚園も公的な施設として開放できる体制を検討する必要がある。また、津波を想定した訓練や保護者への引き渡し訓練も様々な状況を想定し、具体的に見直している。

○防災教育について

どんな地域でも津波も含めた防災教育を取り入れる必要がある。最終的には一人一人が自分で判断して命を守れる力をつけることが必要だ。

○心のケアについて

安全な場所で大人がいつも守っているという安心感を与えること。長期にわたる心のケアを社会全体でしていかなくてはならない。

○放射能対策について

本園でも毎日放射線量を測定し、安全が確認されているが、栽培活動の見合わせや水筒の持参、園庭芝の刈り込みなど、対応をしている。

震災時、私は毎日、幼稚園や他のPTA会長と連携を取り情報交換をし、常に現状を把握した。心のケアや放射能に関する保護者対象の講演会の開催、福島の附属幼稚園の子どもたちとの交流等の取組もした。

4　おわりに

こんなにも多くの命が犠牲になった大震災は「想定外」という一言で片付けられるものではない。二度とこのような想定外の事態を招かないように、教訓と課題をしっかりと見つめ直し、今後に備えていきたい。

提案発表Ⅱ

「子育ての手始めは親育てから」～園行事で社会性と協調性を親も学び、子どもたちへ～

茨城県小美玉市立堅倉幼稚園
平成二十三度PTA会長
京川　誠

1　はじめに

本園は、茨城県のほぼ中央に位置する小美玉市にある。堅倉幼稚園は四歳児十二名、五歳児二十二名の計三十四名が在籍している。園の行事や催し物には、父母の他に祖父母も必ず参加してくださる昔ながらの三世代の家族愛が感じられる土地柄である。

幼稚園へは、徒歩か車での送り迎え。朝、子どもを送って来た後や迎えに来た時に、園庭の木陰で井戸端会議に花を咲かせている光景が毎日のようにあり、子どものことや家庭での問題、幼稚園や小学校や地区の子ども会の話、果てはお姑さんの話など話題は尽きない。

堅倉幼稚園を卒園した子どもたちは皆、隣の堅倉小学校に入学する。幼稚園では小学校と連携して「おにいさん、おねえさんと遊ぶ会」などの交流会を実施しているので、違和感なく新一年生になることができる。

2　活動内容について

○夕涼み会

保護者は、それぞれ五つの専門委員会に所属しているが、この行事はすべての委員会が参加・協力する。毎年恒例で七月に行われ四十年の歴史がある。

模擬店は駄菓子屋、射的屋、食べ物屋、ヨーヨー釣り、くじ引きなどがあり、子どもたちに大人気。「夕涼み会」は祖父母を始め、お父さんや兄弟も参加して楽しいひとときを過ごす。

○バザー

運動会のお昼休みに開催される。日用雑貨品を寄付していただくが、有志による小物作りも盛ん。品物は十分ほどで完売。その売上金は卒園児の記念品代や幼稚園の備品購入のために幼稚園に寄付している。

○餅つき　「ならせ餅作り」

「ならせ餅」は、紅白の餅をブナの木やクヌギの木にならせ、無病息災と五穀豊穣を祈願する茨城の伝統行事。会場にはもち米や臼、杵の他に、ブナやクヌギやナラの木などを準備し、子どもたちにも餅つきを体験してもらい、ならせ餅を親と一緒に作って飾る。つきたてのお餅をみんなで食べる。飾っておいた「ならせ餅」は、その後「揚げ餅」にして園児にふるまっている。

3　おわりに

私には今春、高校を卒業した娘がいるが、幼稚園の頃を思い出すと、一つ一つのでき事がまるで宝石のようにキラキラと輝き、貴重な時間であったと実感している。思い出が色あせないのは言葉では表現できないくらいの充実感があるから。それは『やらされる』ではなく、『子どものために自らが率先してやる』という考えが保護者の間に根付いているからだと思う。せっかく子どもを通じて知り合った者同士、幼稚園行事にも積極的に参加して楽しくやらなければもったいないですよ！

提案発表Ⅲ

「伝えようつながろうみんなで子育て」

加須市立加須幼稚園
平成二十三年度ＰＴＡ会長
大井　美智留

1　はじめに

加須市は、埼玉県の東北部に位置し、群馬県、栃木県、及び茨城県に接している。市内には、公立の幼稚園が十三園あり、すべての幼稚園が保護者の協力により、特色あるＰＴＡ活動を行っている。

2　本園の概要

今から約九十年前の大正十二年に開園。埼玉県の公立幼稚園の中で最も古く、県の認可を初めて受けた幼稚園。祖父母から三代にわたり、通園した家庭も多くある。

3　ＰＴＡ組織と活動内容

(1)執行部…役員会の運営等
(2)教養部…給食試食会やレクリエーションの企画、運営等
(3)広報部…ＰＴＡ便りの発行等
(4)生活環境部…交通安全教室の開催等
(5)保健厚生部…ベルマークの収集等

4　みんなで子育て

(1)おひさまママさん
入園式翌日から一か月、担任のお手伝いをする。卒園児や年長組の保護者から募集し、新入園児と遊んだり、安全を見守ったり絵本を読んだりする。
(2)ふれあいサークル
プールママさん、駐車場整備ママさん、カルチャーママさん、運動会ママさん、用具係ママさんがある。時にはパパさんも大活躍してくれる。
(3)子育てママの語ろう会
年に数回、様々な年代が集まり「子育ての悩み」などについて話し合っている。併設の小学校・近隣の小学校ＰＴＡとも連携を取りながら進めている。
(4)子育ての目安「三つのめばえ」
①加須幼稚園・ＰＴＡ版　子育ての目安「三つのめばえ」
○「生活」…早寝・早起き・朝ご飯の習慣を身に付けましょう。
○「他者との関係」…家族との温かいつながりを作りましょう。
○「興味・関心」…いろいろなものにかかわることができるようにしましょう。
②「子育てエピソード集」
子どもとのかかわりの中で感じたエピソードをまとめた。
(6)誕生会を祝いましょう
在園児や卒園児の保護者がゲストになり、一緒にお祝いする。

5　おわりに

加須幼稚園の保護者はみんな仲よし。クラスごとに親睦会を開いたりＰＴＡレクリエーションで行ったソフトバレーボールが、小学校四年生になった保護者有志で今も続いたりしている。今後の課題としては、保護者の温かなつながりが卒園後も続くようにすることである。引き続き小学校のＰＴＡとも連携を図り、地域に密着した加須幼稚園ＰＴＡであり続けたい。

指導助言Ⅰ

文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長　伊藤　学司氏

災害はいつ起きるかわからないので各園でも宮城教育大学附属幼稚園の実践を参考に日々の対応について考えてもらいたい。幼稚園教育の中で園児にどのような力を付けるか？防災教育は、幼児がどういう行動をとるかという基礎となる部分を、園と保護者が共に考えていくことが大切である。日頃よりＰＴＡを含んだ地域と幼稚園が一緒に地域づくりをしようとし、「自分たちの地域をつくる」という意識が大切だ。

小美玉市立堅倉幼稚園の発表では、ＰＴＡ活動は保護者が自ら子どものために率先してやると楽しかったという姿が多く見られた。これは、自ら協働、協調の力を身に付けるということ、保護者自身が率先して動く、自らが楽しいと感じる、協働する姿を子どもに見せることが大切だと感じた。幼児期は人格形成の基礎を培う大切な時期であり、保護者も親になって4～5年目、幼稚園でのＰＴＡ活動が親としての人格形成の基礎となり、その後の人生も豊かにする。

加須市立加須幼稚園の発表では、幼稚園が地域の教育センターになっている素晴らしい活動である。「子育てママの語ろう会」は先輩のママ、近隣小学校の保護者が参加し、互いに悩みながら、学び合うことが、まさに地域の子育てセンターとしての役割を果たしていると言える。

三園はどれも素晴らしい取組だった。これからも国公立幼稚園のＰＴＡが一つの模範となる素晴らしい活動をしてくれることを望んでいる。

指導助言Ⅱ

全国国公立幼稚園会会長　荒木　尚子氏

宮城教育大学附属幼稚園では、東日本大震災の様子を全国に向けて報告くださったことに意義の深さを感じる。すべてがスットプした時の不安や大震災での恐怖体験の報告を通して、皆が自分でできることを見つけることが大事だと感じた。教師は、幼児自身が自分の身を守ることを発達段階に応じて確実に指導すること、地域の方々には、即断即決のかかわりをすることが大切。そして、保護者と教師が一つになって行動することや日頃からのＰＴＡの組織づくり・関係づくりが必要であると再認識した。

小美玉市堅倉幼稚園では、一つ一つが楽しく目に浮かぶ事例であり、保護者全員が参加し、計画的に行っている。昔ながらの三世代で過ごす等、園の風土がとてもいい。運動会の休憩時間のバザー、地域とのつながりが多い。修了した方からの楽しかったという言葉も聞かれＰＴＡの活動の意味や良さを感じられる。

加須市立加須幼稚園では、役員以外の人がお手伝いの機会をもてる活動の取組に工夫がみられる。活動を通して、保護者が自分の子育てを振り返り、視野を広げるとともに、ＰＴＡが地域の子育て支援の役割を担っている。

加須幼稚園版「三つのめばえ」や「子育てエピソード集」の作成は家庭教育の向上をめざしてＰＴＡが率先して取り組む姿である。

三園の提案は、本大会のテーマの江戸のしぐさの「お心肥」「即実行」に通じる素晴らしいものであった。

記念講演

「優しさはどこから」～こどもと暮らして～

講師　聖路加国際病院副院長
小児総合医療センター長
医学博士　細谷　亮太氏

僕は「優しさはどこから」という本を書いているんですけど、その中に「優しさの原点」という章があります。素平君と司君、という幼稚園のお子さんが、病棟で二人で数ヶ月を過ごした記録をNHKが七～八年前に撮っておりまして、それを最初に見てもらい、子どもたちの優しさというのは、どんなものなのか感じていただいてからお話をしたいと思います。

〈ビデオ　十分程〉視聴

この映像は、カメラマンとディレクターとそれから録音の人を聖路加病院に朝から夜までずっといて撮りためた中から選ばれたいくつかのエピソードをオムニバス風に作った番組の中の一部分です。ちょうど皆さんが関係するような5歳から6歳の子どもたちです。小学校にこれから行くという位になると、人間はこんなに優秀になるっていうことが分かるような映像になっています。

一人はスキー場で怪我をして足を骨折してアキレス腱を切って入院してきた司君という男の子ですけど、歩けない。もう一人は、神経芽腫という小児の癌の中では代表的なものの一つで、進んでしまうとなかなか治せなくなります。この子はすでに、頭に転移があって、それから目も見えなくなり、声も出にくくなっています。そんな二人が仲良しになって、絵本を読んでもらうシーンがありましたね。あの時に足の悪い司君が目の悪い素平君のベッドの方に運んでいってもらうというシーンですが、あそこで声が出にくい素平君が、自分の声を何とか出して「気を付けて来てね」って言ってたのが、録音でちゃんととれていました。そのお返しに、司君は、目が見えない素平君のために自分が今持ってきた絵本が、「こういう絵本とこういう絵本とこういう絵本があるけど、どれにするか」って、ちゃんと言葉で提示して、選ばせるという行為をしていました。自分はできるけれど他の人はできない、というような時に、その人の為に何かをするというようなことが、大体5歳位になるとできるようになっているんですね。

もっとすごいのは、素平君が亡くなった後に、司君が素平君の窓のところに貼ってあるシールを「これはお守りだから、これがあると素平君はもういないけど、勘違いして、いるように思える」というようなことを言うんですね。日本語がまだ充分ではありませんから、『これがあると思い出すよすがになる』とかそういう難しいことは言えませんが、「これを見ると素平君と一緒にいた日がちゃんと思い出せるから大事なシールなんだ」とディレクターに説明をしているシーンがありました。人が死ぬということって、ある程度の年にならないと、戻ってこないもんだっていうのは分からないんですね。だからお母さんが「素平君は死んでお星様になったんだよ」っていうような話を最初にするのですが、その時に司君がなんて言ったかというと「いつから」っていう質問をしているんです。「いつ死んだか」っていう風に質問するのが大人なんですけど、「いつから死んでるか」というようなことを言っている。これは『ちょっとしたお出かけで、もう一回戻ってくる』というような感覚がまだ残っている年代の子どもだから「いつから」っていうようなことを聞いたりしているんですね。前に司君が飼ってた金魚が死んだ時に、お母さんがその金魚をティッシュに包んで、マンションの一番下のお庭まで行って、お庭の土を掘って金魚を埋めてあげたことがあったというような話を司君が僕にしてくれたものですから、僕は司君に「それと同じように、素平君も、もう戻ってこないんだよ」と話をしました。でも、もう戻ってこないけど、素平君がまだいると勘違いができるからこのシールは重要だ、という話を司君はしてくれました。

これと同じようなシーンが有名な絵本『星の王子様』の中にあります。王子様とキツネが出会います。キツネは王子様から『一緒に遊ぼう』って言われるんですけど『キツネと人間は特別な関係でなければ遊べないんだ』だから『自分を飼い慣らしてほしい、そうすれば何百万匹もいるキツネの中で自分はあなたにとって特別なキツネになって、王子様も自分にとって特別な人間になる』ってキツネが言うんですね。そして一緒に遊んで別れる時に、『王子様の金色の髪をとってもすてきだと思った。それが風になびくのを見て、まるで麦畑のようだ。だから、今度、麦畑を見た時には、王子様を思い出すから、麦畑も好きになる』というようなことをキツネが言うんです。大人の中にいる子どもに向かって書かれた絵本で、大人になっても大人の中にはいろんな子どもがそのまま残っています。その残っている子どもをどの位、感じるか、大事に思って暮らしているかということが、周りにいる子どもたちにとっては、とても重要なことです。完全に自分の中に子どもがいなくなってしまう人というのはいないと思いますが、常日頃から思い出すということをしておかないと、「子ども」がだんだん、薄くなっていって、消えてしまうんですね。自分の中にいる「子ども」、自分が子どもだった時の「子ども」かもしれないし、自分が子どもだった時の友達かもしれない。そういう子どもの、イメージっていうのを大人はずっと大事にしながら、大人になっていかないといけないと思いますし、大人になってからも思い出さないといけないのだと思うのです。

子どもと一緒に暮らすっていう仕事を選んだ人は、本当に幸いだと思うんですよね。僕も小児科になって本当によかったと思っています。

優しさっていうのは、大人が優しいことをしてくれたり、子どものために大事な時間を使って何かを教えてくれたりというようなことがあって、初めて子どもは優しさを身に付けていくのだと思うのです。

（事務局要約）

平成二十四年度 表敬訪問報告

平成24年9月26日、全幼P萬里小路会長、荒木全国国公立幼稚園長会会長、同事務局長、全幼P役員の計15名が午前10時から文部科学省へ表敬訪問を行った。

お忙しい中、山中文部科学審議官、上月大臣官房審議官、伊藤社会教育課長、高木地域学校支援推進室長、伯井初等中等教育局財務課長の皆様にお目にかかり、幼稚園の実状をご理解いただいた。PTA活動を通して親の学びや成長、PTA役員経験者の地域社会への貢献度の高さについてもお話した。審議官からは国公立幼稚園PTAへの熱い期待を寄せていただき、有効な発信についてのご示唆もいただいた。

（ここに要望書の全文を載せる）

要望事項

一　国策として、幼稚園教育振興・充実を図っていただきたい。

公立幼稚園未設置市町村が、全国で八七三（五〇・〇%）あります。これら未設置市町村を解消し、幼稚園教育を希望するすべての幼児が完全に就園できるよう、次の項目を強く要望します。

1. 市区町村に対する公立幼稚園設置義務化のための法整備
2. 三年保育の実施拡大
3. 財政難を理由にした幼稚園の統廃合抑制・民営化の阻止
4. 幼稚園における子育て支援及び預かり保育のための財政措置

二　幼稚園教育環境の整備・拡充を図っていただきたい。

公立幼稚園は小・中・高等学校と教育環境において様々な格差があります。幼稚園教育充実のため、人的、物的、及び、制度的環境の整備拡充がなされるよう、次の項目について特段のご高配をお願いします。

1. 専任園長・教頭、養護教諭、事務職員の配置
2. 発達の特性に応じたきめ細やかな指導をするための正規教員数の確保
3. 都道府県及び市区町村教育委員会に於ける幼児教育専門の指導主事の配置
4. 安全管理・危機管理の人員・施設・設備等の改善
5. 幼稚園施設の耐震化推進

三　国公立幼稚園教員の職責にふさわしい処遇を図っていただきたい。

人間形成の基礎を培う重要な幼児期の教育にかかわる幼稚園教員の待遇改善と、資質向上を目指し、次の項目実現のための制度を確立してください。

1. 幼稚園教員に対する教育職俸給表の適用
2. ライフステージに応じた研修経費の確保

平成二十四年度 理事会報告

第一回

期　日　七月三十日（月）

場　所　東武ホテルレバント東京

世界中が注目する「東京スカイツリー」が間近にそびえ立つ近代的な会場で、各県の代表による熱気あふれる理事会が行われた。

萬里小路会長、荒木園長会会長挨拶の後、東京大会今井運営委員長から大会の概要説明があり、引き続き議事を行った。平成23年度会務・決算報告、本年度活動方針、事業計画・予算の報告、優良PTA文部科学大臣表彰、全幼P会長表彰・会長感謝状贈呈について報告をした。次期大会開催地島根県より、取組の説明があった。平成26・27年度提案県について協議が行われた。

役員改選については、各ブロックから選考委員を選出し、委員により役員が選出され、理事会で報告された。

第二回

期　日　十一月十四日（水）

場　所　ホテルセントノーム京都

萬里小路会長、荒木顧問の挨拶の後、東京大会高森実行委員長からお礼の挨拶があり、盛会の内に成功裡に終わったことを確認した。次期開催地島根県の実行委員会から、大会第一次案内に基づき概要の説明と参加の呼びかけが要請された。

続いて、平成25年度の活動方針、事業計画案を協議した。平成27年度～30年度の大会開催地について（愛知、熊本、滋賀、徳島）を確認した。また、平成31・32年度の大会開催地ならびに平成30年度の研究協議提案県について協議した。

議事終了後、理事研修会を行った。「子ども子育て関連3法とPTA活動について」と題して、文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域・学校支援推進室長高木秀人氏から、子ども子育て関連3法の概要と新たな認定こども園制度についてお話を伺った。

第三回は、平成25年3月6日（水）東京都オリンピック記念センターにおいて開催の予定。

おめでとう

全幼P全国大会「東京大会」で、幼稚園の優良PTAとして、栄えある文部科学大臣表彰を受けられた14団体の中から、紙面の関係で、ここに三園のPTA活動を紹介します。

「親と子が育ち合う幼稚園づくりのために」

秋田県潟上市立天王幼稚園
園長　太田　睦

今年度、本園PTAが栄えある文部科学大臣賞をいただきました。本当に嬉しく思います。これまでのPTA会員の皆様や園の先輩職員のご努力、地域の皆様のご理解ご協力の賜と感謝いたしております。

本園は秋田県中央部沿岸部に位置し、昭和33年に旧天王町に創立しました。平成24年度現在、119名の園児が在籍しています。天王はかつて漁業、農業がさかんな地域でしたが秋田市に隣接していることでベットタウンとして住宅数が増え県内では数少ない人口増加の市です。若い子育て世代の転入も多く、同学区内に同じく市立の保育園が二園あり、それぞれの園が就学前教育を担っています。その中でも幼稚園はPTA活動が活発で、幼稚園運営の大きな位置を占めています。

「保護者と幼稚園職員が一体となって幼児のために、できる事を計画し実践していく」というねらいをもって天王幼稚園PTAは保護者会として昭和四十年代に始まりました。当時の記録で『園児は純朴、保護者は幼稚園への関心が高い』という表現がありますが、五十年近く時を経た現在もその気質は変わってない様に思います。

現在のPTA組織としての活動に近くなってきたのは昭和五十年代に入ってからです。子どもたちのために何かできる事はないかと当時の会員の皆さんが話し合ってPTAによるバザーや喫茶食堂コーナー、園側からは園児の作品展示など親子で楽しむ幼稚園祭が始まりました。また同じ頃から、子どもたちの遊具購入の一助にと、ベルマーク収集や廃品回収も始まり収益金を園の環境整備にと大いに活動して下さいました。今以上に園児数が多く、また、ほとんどが家庭にいる母親だったため、幼稚園に協力しながら母親同士の仲間づくりの場としてPTAが役立ってきたようです。

その後、働く母親が増え幼稚園でも預かり保育が始まり、また父親も育児に積極的に参加することが普通になってきたことや社会情勢の変化によりPTAの運営や事業も移り変わりを見せてきました。現在の天王幼稚園PTAは「できる時に、できる内容で園へのサポートを積極的に行なおう」という、主体的ではあるが、強制ではない会のあり方を目指すようになりました。広報部、文化部、体育環境部、福利厚生部、サークル部のいずれかに希望して所属し活動します。春の親子園庭作業、幼稚園祭での父親による食べ物コーナーやオリジナルヒーロー「天王戦士わくわくマン」の登場、おやじの会発足、母親による未就園児園開放「ミミーちゃんクラブ」への支援など執行部（会長と副会長6名で構成）を中心に情報交換と話し合いを重ねながら行なわれています。またクラス親睦会を委員が計画しお茶を飲みながら語り合い、仲間作りの場となっています。

活動の紹介

【23年度】

絵本の「えん」むすびプロジェクト

23年3月11日に発生した東日本大震災で被災した園児への支援として、絵本とメッセージを贈るプロジェクトを県の協力をいただき実施。本園で岩手への出発式が行なわれました。

23年度　絵本の「えん」むすびプロジェクト

もちつき会・おやじの会

昔ながらの餅つきを今の子どもたちにも！という父親たちが企画実施しました。他の園の餅つきを見学に行き、情報を収集し準備して日曜日の当日を迎えました。子どもたちは臼と杵の餅つきを体験。大喜びで丸め、そしてお腹の中へ。先生たちはこの日ご招待で参加しました。

23年度　もちつき会・おやじの会

【24年度】

わくわく祭りイベント・盆踊り

昔から伝わってきた盆踊りを、今年は地元青年部の力を借り幼稚園祭で開催しました。地域の婦人部にもお願いし、子どもと保護者に踊り方練習会を行い和やかで楽しいふれあいの場となりました。祭り当日は仮装での参加者多数で大いに盛り上がりました。

24年度　わくわく祭りイベント・盆踊り

《おわりに》

子どもたちのために、園のために、そして自分たちが育児の楽しみを共有する仲間作りのために、時代は変わっても人との関わりを大切にしてきたPTAのコンセプトを大切にして園として支援していきたいと思います。

【親子で育つ幼稚園生活】

台東区立根岸幼稚園
前ＰＴＡ会長　今野　裕見子

この度、全国国公立幼稚園ＰＴＡ連絡協議会設立五十周年記念大会において、秋篠宮同妃両殿下のご臨席のもと全国十四園の代表として、優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

【本園ＰＴＡの歴史】

本園は、根岸尋常高等小学校附属幼稚園として、明治二十二年一月に創立し、今年で百二十三周年となった歴史と伝統のある幼稚園です。

ＰＴＡは戦後まもなく「母の会」として産声をあげ、昭和三十六年には園独自のＰＴＡが組織されています。初代会長は台東区Ｐ連、都幼Ｐの初代会長を歴任し礎を築かれるとともに全幼Ｐでもご活躍されています。歴代会長様・園長様を始め教職員・保護者・地域の方々のご理解とご協力をいただく中で、子どもたちのためにという思いがつながり、今回の受賞となったと思っております。

フレーベルの恩物で遊ぶ子どもたち《明治の頃》

【ＰＴＡ活動の特色】

本園では、役員ばかりでなく全保護者が係に所属し、一人一人の保護者の状況を踏まえて全員体制で様々な活動を行っています。その一部をご紹介します。

◎ねぎしっ子バザー

通常のバザーと違う点は、手作りコーナーで工作作りを子どもたちが楽しめるようにしています。また、当日は、年長組の子どもたちにもチケットのやりとりや呼び込み、販売のお手伝いをしてもらい、楽しみながら社会体験もしています。

◎おたのしみ会

ねぎしっ子バザーの収益の一部で劇団などをお招きして親子で鑑賞しています。普段の生活では中々味わえない体験ができます。

◎新年餅つき会

一月に行い、子どもたちに日本の風習を体験してもらう行事です。お餅がどのようにして出来上がるか見たり、蒸かしたお米を試食したり丸める体験をします。餅つきは父親の出番です。できたてのお餅は日頃お世話になっている地域の方々をお招きして新年の賀詞交歓と親睦を兼ねてお雑煮にしておいしくいただきます。

新年餅つき会

【子育て研修会の取組】

昨年、都幼Ｐ・都園長会共催の「子育て研修会ＰＡＲＴ８～子どもと遊ぼう楽しもう～」が根岸幼稚園・小学校を会場として行われました。その際、台東区Ｐ連十二園が一致協力して頑張りました。地元警察、各区の遊び広場（本区では下町のよさを生かし民話と伝承遊び、お囃子の会コーナー）など雨模様にも関わらず、全都から千七百名余の参加をいただきました。

お囃子の会コーナー《子育て研修会》

【おわりに】

ＰＴＡ活動を通して、子どもたちが育つ喜びを実感し、親自身も親として成長しています。しかし、少子化の影響で園児数が減り、ＰＴＡ活動も臨機応変に対応することが求められます。質を落とさず工夫を凝らすようになり、保護者同士の連帯感も強まりました。

今後も先生方と保護者が一緒に協力して楽しむ大切さと「親と子の育ちの場となる」より良いＰＴＡ活動を目指してまいります。

「親子で楽しいPTA ～保護者が協力し合える活動をめざして～」

神戸市立神戸幼稚園
園長　野口　啓子

このたび文部科学大臣優良PTAの表彰式にPTA会長と共に出席し、受賞の栄誉を賜ることができました。折しも創立百二十五周年を迎えた年。この上ない大きな喜びとなりました。改めて歴史をつないでくださった多くの先人に感謝し、家庭や地域の力を高めることができるPTAの意義や重要性を心に刻む機会となりました。

【全員参加の一人一係制へ】

本園は二年保育・八十名の園児数です。兵庫県庁や県警など、官公庁や高層マンション、飲食街に囲まれた場所にあります。五年前からPTA活動の活性化を目指して全員参加の一人一係制で運営しています。係と仕事内容を整理し、マニュアルを作り、その都度、調整を細やかに行いながら、現在につなげています。

【心地よいつながりを感じて】

一学期の早い時期に行う親睦会では、係対抗のゲームや恒例の腕相撲大会などで盛り上がります。初めて寄り合った幼稚園で保護者同士が親睦を深めて一年がスタートできることでその後の活動が随分スムーズになっています。「みんなの気持ちがつながっていくことが実感できた」という声も聴かれます。

「親睦会のゲーム大会」未就園の子どもが参加できるプログラムに応援の声が掛かります。

【絵本で子育て】

絵本の読み聞かせは「いいとも方式」で、やってみようと思う人から始まりました。アンケートに「○○ちゃんのお母さんだと喜んで聞いてくれることが嬉しい」「子ども達が真剣な眼差しで聞いてくれて感動した」「何度でも読んでみたい」という積極的な声が多く聞かれ、いつの間にか全員参加で回っています。絵本への関心が高まり、子ども達とお母さんお父さんが親しくなる場としても貴重な活動です。

月に一回の予定が毎週一回になった絵本の読み聞かせ

【子どもの喜びに共感する】

親子縁日の日は、手作りのゲームや迷路、おもちゃづくりなど、いろいろな遊びのコーナーができ、親子の歓声や温かいかかわりが広がります。「やったねー」「頑張ったね！」と声を掛けたり、拍手を送ったりして、子どもと一緒に喜ぶお母さん、お父さんの姿が印象的です。また、夏休み中の園庭開放では、スイカ割りや水鉄砲遊びなどを行い、幼稚園の庭いっぱいに親子の歓声が響きました。子どもの気持ちに寄り添い、一緒に楽しさを共感するということは、子育ての喜びを感じる原点となっているようです。

夏休みの園庭開放。三か所のコーナーで「スイカ割り」

【全員参加のよさを実感】

全員参加の活動は、お互いの苦労が分かるので、係以外のことも「○○ならできるから言って」と声を掛け合ったり労いの言葉を掛け合う姿も見られます。また、我が子だけでなく、周りの子どもとも親しくなり、成長を感じたり一人一人のよさに気づいたりされています。

子どもたちの喜ぶ顔が見たいという気持ちで頑張り、活動を通してお互いの得意なことが分かったり、協力したりしてやり遂げたという達成感は、幼稚園のPTA活動ならではの経験ではないでしょうか。

今後も「親子で楽しいPTA」をめざして、歴史を積み重ねていけるよう、保護者や地域の方と共に歩んでいきたいと思います。

全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会章

第51回全国国公立幼稚園ＰＴＡ全国大会

島根大会ご案内

大会主題「縁 —ENISHI—」

～甦る出雲の神話（親輪）～

期日　平成25年8月9日（金）・10日（土）

場所　出雲市民会館　島根ワイナリー

島根県　県章

中心から放射線状に伸びる四つの円形が雲形を構成して、島根県の調和ある発展と躍進を象徴し、円形は「マ」を四つ組み合わせたものでシマと読まれ県民の団結を表しています。（昭和43年制定）

第五十一回全国国公立幼稚園ＰＴＡ全国大会

—はじまりがはじまる—

島根大会実行委員長　渡部　幸太郎

第51回全国国公立幼稚園ＰＴＡ全国大会　島根大会の実行委員長、渡部幸太郎と申します。会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

来る、平成25年8月9日（金）・10日（土）の二日間、神話の国出雲の地において、第51回全国国公立幼稚園ＰＴＡ全国大会が、執り行われます。約１０００名のＰＴＡ関係者を迎え、これからの幼稚園教育について考える、島根大会のテーマは、『縁　ＥＮＩＳＨＩ～甦る出雲の神話（親輪）～』です。

このテーマに込められた思いは二つあります。ひとつは出雲神話。古（いにしえ）より語り継がれる、「国引き神話」「国譲り神話」「ヤマタノオロチ伝説」など、数々の出雲神話は、文字の存在しない大昔、古代出雲民族が、命の尊さ、人間の存在理由、世の常、家族のあり方といった、人間が生きてゆく上で、大切なことを物語にして、後世に残した、いわば、語られるべき「教え」とも言えます。神話の中で、子どもは、未来を担う最も大切な存在として扱われ、親に限らず、周りの大人全員が、子どもに目を向け、愛情を注いでいます。本大会では、現代の子育て問題を出雲神話に照らし合わせ、我々の祖先である古代出雲民族の思想や慣習や理念を紐解くことで、本来あるべく幼稚園教育の姿を模索したいと思います。

そして、もうひとつは、本大会のテーマである縁（ＥＮＩＳＨＩ）。縁とは、男女の縁だけでなく、友達の縁、親子の縁など、すべてのものが、幸福であるために、縁で結ばれていることを指し、人と人との出会い全てを言います。縁結びの神様が祀られる出雲大社と出雲神話が脈々と受け継がれるこの島根の地より、子どもをつなぐ家庭・幼稚園・地域社会を大きな縁（円）で結び、多くの神話（親輪）を全国に広げていきたいと思います。

本大会の第1回大会は奇しくも島根県です。はじまりがはじまる島根。50年の時を経て再び島根から新しい歴史が始まります。皆さまにとって、価値ある有意義な時間にすべく、邁進して参りますので、どうか大勢の方のご参加をよろしくお願い申し上げます。